

会 議 概 要

- | | | |
|---|----------|---|
| 1 | 会 議 名 | 第1回安曇野市多様性を尊重し合う共生社会づくり審議会 |
| 2 | 日 時 | 令和7年6月6日（金）午後2時から午後4時20分 |
| 3 | 会 場 | 市役所本庁舎4階 大会議室 |
| 4 | 出 席 者 | （敬称略） 尾碁ゆみ、丸山文、菊池聡、廣瀬豊、松岡信之、塩野治幸、
山口敬之、嶋田奈麻美、西山直美、塚平一彦、降旗幸子、石田悠真、森下右里子、
葦木啓夏、鈴木翔子 |
| 5 | 担当課出席者 | 人権共生課長 櫻井、太場、岡村 |
| 6 | 公開・非公開の別 | 公開 |
| 7 | 傍聴人 | 0人 |
| | 記者 | 0人 |

1 開会（人権共生課長）

2 会長あいさつ

計画策定から3年目、中間の年度となる。意識づくりなどは特に時間を要するものであり粘り強い地道な取り組みが必要。当事者の方の参画も非常に大事で、ご活躍いただいている。社会の変化は激しいので、必要に応じて指標や施策の方向性などについても検討する必要があるのではないかと。令和9年度の計画実施最終年度もにらんで、今後の取り組み方法など建設的なご意見をいただきたい。

3 協議事項 【発言者 ◎会長 / ・委員 / ⇒人権共生課】

（1）令和6年度安曇野市多様性の尊重し合う共生社会づくり推進施策進捗状況について（人権共生課説明）

【質疑応答】

・施策の方向性があり、具体的な施策があると思うが、その具体的な施策が目指すべき施策の方向性に向かっているのか、どの時点で見直しをするのか。また、成果につながっているのか、どうすればそれを測れるのか。

⇒ご指摘とおり、目指すべき方向性に向かっているのか進捗を測るのが難しい。計画策定時もどのように進捗を測るのが課題となった経緯もある。見直しの段階については、具体的施策が成果につながっているのかを今の時点で判断するかは難しいところ。令和9年度には新たな計画を策定するため、今の数値目標や指標で進捗を測るのに適しているのかも含め、委員の皆様からご意見をいただきたい。

・数値目標について、市民意識調査はどのようなサンプリングで行われているか。

⇒調査は、政策経営課で実施しており、対象は18歳以上の市民2000人を無作為抽出している。調査方法は郵送により配布し、回答は郵送又はWEBによる回答。回収率は43.1%で、回答者数861人となっている。

・そのくらいであれば、数値の5%くらいは誤差の範囲内なので、細かい数値について一喜一憂する必要はない。アンケートの設計（近くにどのような設問があるのか）によっても左右される。数値目標を立てるのは重要ではあるが、細かい数値に囚われるのではなく、大まかな傾向をとら

えればよい。

- ・これらの資料のとりまとめやアンケート等については、大変な労力がかかっている。近隣の市と横の連携できないか。アンケート、セミナー、展示等、市単独で行うより、コストや労力の削減になり、効果も何倍にもなる。そういったところのマンパワーは温存し、本当に安曇野市でやらなければならないことに人員を割くようにしていけないか。

⇒近隣の市の取り組みを聞き、今後の取り組みにおいて連携を模索したい。

- ・1階ロビーに緊急時用の電光掲示板が立てられないか。聴覚障がいの方だけでなく、高齢者も多いため、どなたでも情報が届くようにしてほしい。
- ・安曇野市は移住も多い中で、子育ての指標が下がっているのは苦しいのではないか。園には入れても、近くの保育園に入れないといったこともあると思うので、もっと総合的に考えてほしい。

⇒子育ての指標は、重要度は上がっているため、子育てに対する求めるものが大きくなっているというとらえ方もできる。希望する保育施設に入れているかは、担当課も把握しており、子どもに関する計画に沿って、子育ての支援を推進している。

- ・性に対する意識も含め、根は人権。子どもの頃からの教育が大事。幼少期からの包括的性教育、一人ひとりの人権意識の向上が根本的に大事で緊急性が高いと感じる。
- ・児童クラブに携わっているが、子どもがパンパンで溢れている状態。もしかしたら施設を増やす等地域の負担にならないような工夫が必要なのかもしれない。

◎人権意識の向上は自殺対策にもつながっている。性的マイノリティについての理解促進も人の命にかかわる。

- ・学校では毎日人権教育。6月と11月に人権教育月間（旬間）を設けて実施している。
- ・外国籍の住人とのトラブルは、普段からのコミュニケーション不足によるものも大きいのかもしれない。
- ・マニュアルについて、区や民間不動産、賃貸所有者等に配布したり、積極的に情報発信したりする予定はないか。どう伝えたらよいかかわらず、言えないから軋轢が生まれる。

◎日本人でも近隣の人に渡したい等の要望があるのでは。マニュアルがあることでコミュニケーションが取れば、トラブル解消でき、日本人も外国籍も仲良くできる。

・お知らせすることは重要だが、一方的に掲示する方法では、「読む」という文化がない国や読んで従う文化ではない国もある。意見交換会のような場で、お互いの意見を聞く場があるとよい。

- ・外国人ボランティアの活用拡大の施策について、理解が難しいので説明を。

⇒活躍の場を作る前に、まずは多くの外国人の方に、市のイベントに参加していただいたり、主体的に活動していただいたりしてもらえよう、働きかけを行いたい。協力確認書の提出企業等についてもお願いできることはお願いしていきたい。

・海外で外国人として過ごしてきて感じることは、その国の文化を知らずにやってはいけないことをやってしまうことはある。ごみの分別などは、収集後に分別している国もあつたりするので、その理由や背景まで含めて知ってもらうことが必要。

・外国人の中でも長期で住んでいる人がいれば、その人がハブになって新しく来た方に対して、地域のコミュニティとつないでもらえるようになったらよい。文化圏がそれぞれ違うので、それぞれの人材が育ってもらえたら。

◎みんなが温かい対応を取ってもらえたら、仲良くなれる。違いを知るということで、私たちも理解していく必要がある。外国人同士でつながっていることもあるので、そうしたつながりが教え合う場になればもっとよい。

・それぞれ交流が出来ているところではあるが、相談会だけではなく、外国の方と関わったことで良いことがあった具体的なプラス事例を集めて、共有することで多文化共生につながるのでは。

・小中学校内では、いろいろなところで段差があったり、車いす用のトイレがなかったりする。昔、車いすで普通の学校に通いたいという子が施設が整っていなかったため、養護学校へ行ったということもあった。お金のかかることなので難しいとは思いますが、少しずつでよいので変えていってほしい。

⇒学校の建物については近年大規模改修が行われているところ。こういったご意見については、反映していただけるよう担当課へ伝えていきたい。

◎困っている方へ手が届くように。

・ユニバーサルデザインはどんな方でも使いこなせる環境のことで、施設やフロント等のデザイン設計に関わるため、スペースや予算等コストがかかることが多い。こうしたネガティブな面をつぶしていく司令塔のような役割をどうするか。

◎計画策定時にユニバーサルデザインは一度に進められないことから、まずはこころのユニバーサルデザインに着目してやってきたが、そこから一歩進むと施設や設備などどうしてもコストのかかるものにシフトせざるを得ないがどうか。

⇒コストについてはかかるものと理解している。人口減少の社会背景もあり、公共施設等は縮小傾向に向かっている中で、新しいものをという理解されないこともある。そのため、まずは必要性を理解してもらうことからやっている。それぞれの人にとって暮らしやすい社会にしていきたい。

・多機能化したときに、その管理者が機能を知っていることがまず大事。多機能トイレができれば、それで誰もが使えるということではなく、多機能化しても使えない人がいて、多機能トイレでなくても通常のトイレを工夫するだけで使える人もいる。トイレの改修の際に多機能トイレをひとつ増やして終わりではなく、普通のトイレも含めて使いやすいデザインにしていけることが大切。多目的トイレがあるから大丈夫ということではなく、どのような多目的トイレか、どういう人には使いやすいといった内容を発信していくことが次のデザインに活かされていく。

・ユニバーサルツーリズムに係るものは、市で用意するだけではなく、レンタル業者等を活用し、一時的に用意できる環境を整えることも考えられる。必要な時に必要なだけ提供できることが、ユニバーサルな環境にも観光にもつながる。

・ユース世代のイベントをしているが、性的マイノリティの子が学校や公共施設のトイレに入りにくい、我慢することも多いが、少しの変化で入りやすくなることもある。行政がそうした取組を行っていることを知ることで、すごく勇気づけられた。ユニバーサルデザインが進んでいることが、若い世代のエンパワーメントにつながっている。この会議で話合われていることは、この中だけでなく、その先の多くの人達向けにも動いている。そのような審議会であることがよかった。

◎みんなの気持ちに寄り添うことが大事。令和9年度の新しい計画にむけて良い方向にいくように。

(2) その他

審議会の進め方、進捗管理の評価基準について（人権共生課説明）

【質疑応答】

・自分の関わっている事業や施策の評価が△が多く、衝撃だった。100%を花丸や二重丸にして、70%以上を○、50～69%を△、50%未満を×にすると見方も変わるかもしれない。

◎担当や関係する人たちのモチベーションにも関わる。

・評価が何のためなのかということをしっかり決めていけばよい。次の方策に向けてであれば、そういう気持ちになるような評価を。

・このままいけば大丈夫というような「順調」という指標と、「改善が必要」（目標値の改善、事業内容の改善）と「大幅な改善（見直し）」等にすると、実際の評価との照らし合わせがしやすい。

・×と△はマイナスな気持ちになるが、○の方にも問題がある。○だとしても、完璧ということはない。どんなことでも様々な課題があるはずで、その課題を次につなげることができればよいが、○にしたことでその課題を見ないのであれば○がかえって悪い結果になる。数値目標を掲げて進めていくことは、客観的に政策を評価するうえで必要なこと。○が完全な100ではないことをどこかに出せたらよい。

⇒次の施策につながるような評価を検討したい。

4 閉会

(以上)